

●方法

対 象 : 冷え症自覚者

入 浴 条 件 : 40°C10 分間の全身浴

浴 用 剤 : 食塩含有炭酸ガス浴用剤

急性効果は1回入浴、慢性効果は15日連続入浴により評価

試 験 フロー : 安静 → 入浴 → 30分後まで測定。

さら湯入浴と食塩含有炭酸ガス浴用剤入浴（急性、慢性の2種）をそれぞれ実施

試 験 方 法 : 被験者は、25°Cに設定した試験室にて安静馴化後、入浴前、入浴後30分後に測定

測 定 項 目 : 腹部皮膚温度、下肢末梢皮膚温度、腹部皮膚血流量、下肢末梢皮膚血流量を測定。
冷え緩和、疲労回復、肩こり、腰痛などの主観評価について試験後にVASにより評価を行ないました。

すべての試験で、被験者に事前に試験内容を充分説明し、同意を得て行ないました。

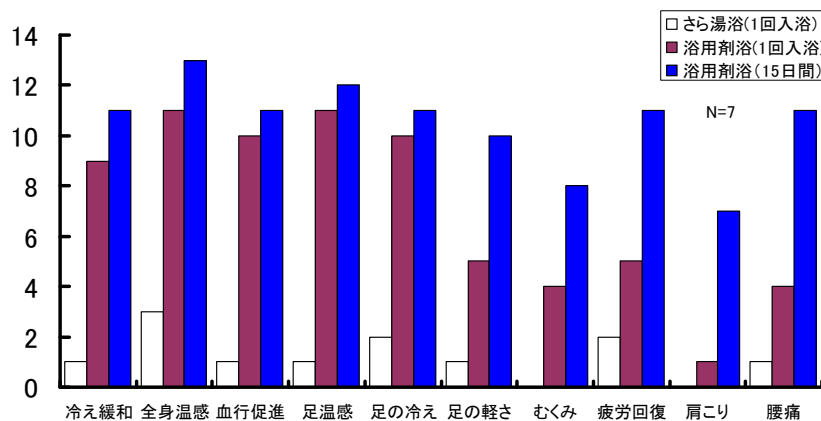
●結果

1) 主観評価

試験終了後、非常に良い(+3)、良い(+2)、やや良い(+1)、普通(0)、やや悪い(-1)の基準にて評価しました。

すべての項目で、さら湯入浴と比較して、食塩含有炭酸ガス浴用剤入浴のほうがより緩和されました。食塩含有炭酸ガス浴用剤1回浴の急性効果では、評価の高い項目は冷え症の緩和、全身の温まり感、全身の血行促進感などが挙げられました。一方、15日連続浴用剤入浴の慢性効果では、疲労回復感、肩こりの緩和、腰痛の緩和などが挙げられました。

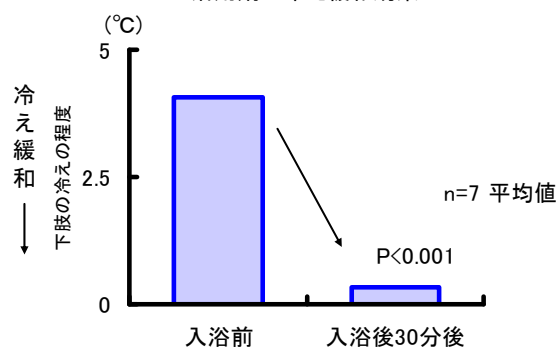
主観的感覚の合計点



2) 下肢の冷えの程度（下肢末梢皮膚温度と腹部皮膚温度の差を指標）

食塩含有炭酸ガス浴用剤15日連続入浴は、入浴前後で下肢の冷えの程度が有意に緩和しました。(p<0.001)

浴用剤の冷え緩和効果



3) 下肢末梢皮膚血流量

食塩含有炭酸ガス浴用剤 15 日連続入浴では、入浴前後で下肢末梢皮膚血流量が有意に増加しました。

($p < 0.05$)

